

会報「技術士しそーか」

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部
事務局連絡先 Phone：080-9194-4715 E-mail：ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
支部長：加藤信之 事務局長：松世麻理子 会計：小澤 靖 広報：水野俊兵



撮影：松世麻理子

2023年5月25日 静岡県静岡市 清水港の夜景

目次

支部長挨拶（支部長 加藤信之）	P1
新年度に向けての抱負です。	
東部地区例会（見学会）報告（事業開発委員長 土井俊幸）	P2
3月5日にキリンディスティラリー富士御殿場蒸溜所の工場見学を行いました。	
西部地区例会（見学会）報告（防災委員長 馬淵大樹）	P2
3月11日に楽器博物館の見学と台風15号被災者支援活動中間報告を行いました。	
中部地区例会報告（CPD委員 内藤克巳）	P3
3月25日に「小中学生向けプログラミング教育」について講演会を行いました。	
第6回CPD講演会報告（防災委員長 馬淵大樹）	P4
2月18日に倫理、コロナ対策をテーマに講演会を行いました。	
今後の予定、編集後記	P5

表紙 2023年5月25日 松世 麻理子（撮影者）

○撮影場所：静岡県静岡市 清水港

清水港にある商業施設ドリームプラザ、通称「ドリプラ」の夜景です。「ちびまる子ちゃんランド」が人気です。

裏表紙 2023年5月25日

ドリームプラザの遊園地の夜です。

支部長挨拶

皆さんこんにちは、静岡県支部支部長の加藤信之（電気電子部門）です。2021年度から引き続き、2023年度も支部長を拝命させていただきます。日頃から静岡県支部の運営に対しご尽力くださった皆様に感謝と敬意を表します。

また、2021年度の熱海土石流災害に続き、2022年度は台風15号による自然災害が発生しました。被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、2021年度より支部長を仰せつかりまして早2年となりました。振り返りますと、いろいろな仕事があり毎日忙しく過ごさせていただいております。

支部長継続に当たって、下記の項目について進めていきたいと思っております。皆様の引き続きご協力頂きますようよろしくお願い致します。

（1）ポストコロナに向けた活動方法の変革

現在はコロナウイルスに対する対処方法が確立してきているのもあり対面式イベントも増えてきましたが、2年前は技術士会イベントがほとんどできずにいたことを思い出します。当初は何もできませんでしたが、オンライン会議システムが一般化するとともにCPDイベントが復帰してきました。オンラインシステムは世界中どこからでも参加できるメリットがありますので、このシステムを使って今後は日本の技術士をグローバルに発信していきたいと思っております。また、対面式はお互いの顔を直接拝見することができますので、人脈形成には欠かせません。これからは

両方のメリットを享受できる必要があります。

（2）技術士の社会へのアピール

現在、日本における「技術士」は海外に比べて知名度が低いことを実感しています。このままでは、技術立国である日本の足枷となりえるかもしれません。技術士として、技術の面白さなどを若いエンジニアおよび学生にアピールし、「エンジニアになりたい」と希望を持ってもらえるよう技術士をアピールしていきます。

（3）社会への貢献

技術士である以上、社会貢献は必ず実行しなければなりません。技術の一般への浸透活動として、理科授業支援やテクノロジーカフェを通じて、技術を一般の方々に理解しやすくする活動は従来通り継続していきます。また、静岡県は地震や風水害などの災害が多い地域でありますので、災害が発生した時の技術援助はもちろんのこと、災害を最小限に抑えるべく防災教育などを通じて地域社会に積極的に貢献していきます。

コロナの状況は5月8日から感染症法の「5類感染症」になりましたが、引き続き感染にはご注意ください。また、CPDイベントなどではぜひ対面で直接お会いしたく、皆様のご参加を楽しみにしています。

今後とも技術士会静岡県支部ご支援をよろしくお願いいたします。

（支部長 加藤信之）



地区例会

東部地区例会

2023年3月5日(日) コロナ禍の影響で中断していました東部地区例会を3年ぶりに開催しました。今回は久しぶりに懇親を深めることも目的に、御殿場市に所在するキリンディスティラリー富士御殿場蒸溜所の工場見学を企画しました。参加者は8名で、久しぶりにお会いする方がほとんどでした。

キリンディスティラリー富士御殿場蒸溜所は、1973年操業以来、モルトウイスキーとグレーンウイスキーの両方を製造し、仕込みからボトルリングまでを一貫して行う世界でも稀な蒸溜所です。

工場見学では、モルトウイスキーとグレーンウイスキーそれぞれの蒸溜と発酵の工程について、その違いなどの説明を聞きながら見学しました。残念ながら工場ラインは休日で停止していましたが、動画を見ながら理解を深めました。その後パッケージング工程を見学した後、代表的なモルトウイスキーとグレーンウイスキーのテイスティングを行い、味の違いを学びました。普段は何気なく選んでいるウイスキーも、これからは拘って選んでみようと思いました。

久しぶりの対面の見学会となり、会員同士の会話も弾んで楽しい有意義な交流の場になりました。(事業開発委員長 土井俊幸)



写真 2-1 キリンディスティラリー富士御殿場蒸溜所(同所ホームページより)

西部地区例会

2023年3月11日(土) に西部地区例会を3年ぶりに浜松市で対面形式で開催しました。従来の例会では、会員有志が自分の専門事項等について発表する形態でしたが、開催するか否か直前まで決まらず、発表の準備時間が取れないことから、楽器博物館の見学および台風15号被災者支援活動中間報告を行いました。7名が参加しました。初めて参加された方が2名でした。

楽器博物館では世界の主な民族楽器や様々な楽器が展示されており、人類の歴史と音楽の関わりが興味深く感じることができました。また、ミニ演奏会が行われ、実際の演奏を楽しむこともできました。

台風15号被災者支援活動の中間報告では、必要経費について懸念する意見がありました。交通費は県支部から支給されますが、あくまでボランティア活動の範囲内での活動に留まるので、通常業務の様な活動までは出来ないと認識せざるを得ず、被災者支援活動の限界を感じるところです。

(防災委員長 馬淵大樹)



写真 2-2 中間報告の様子

中部地区例会

中部地区例会は、静岡労政会館にて2023年3月25(土)に開催した。講演会はアイウェイドットジェイピー代表の井村 博 様を講師としてお招きして、テーマ「小中学生向けプログラミング教育」について約90分の講演をいただいた。井村様は、子供・社会人向けのプログラミング教室を開業されている。本講演会参加者は8名である。

1. 講演概要

プログラミング教育の背景：2020年度から小学校でプログラミング教育が開始。目的は倫理的思考力の向上である。現在、様々な分野でコンピュータが必要不可欠な状況であり、これら分野の高度化・複雑化に対応できる人材を国内で担うことも背景にある。一方、プログラミング経験のある教師は非常に少なく、教科として発展途上の段階である。高校科目では、2022年に情報1、情報2が始まった、情報システム、ネットワーク、プログラミングを取り扱う。2025年の大学受験生、2029年大学卒業、これら学生を受け入れる企業は準備できているのか、今後の課題である。

プログラミング教室の取り組み内容：目標は、「プログラマ脳」の取得である。プログラムを通じて、「合理的な思考力と問題解決能力」を取得する。具体的には、簡潔かつ、効率的、論理的な物事の組み立て、3つの構造（順次、分岐、繰り返し）の基本を身に着ける。

カリキュラムは、まずScratch（MITが開発したビジュアル言語、小中学生対象）から開始して、ゲーム開発を通じたプログラミングの基礎を学ぶ、その後、Processing（中高生・社会人対象、Javaベース言語、簡単な3D図形の作成が可能）または、micro:bit（電子工作デバイスによる電子制御が可能、回路作成も勉強になる）、Python（AIシ

ステム開発言語）により、本格的なIoTシステム開発も挑戦している。以下は、講師による実演の様子である。



写真 3-1 講演の様子

資格取得：日商プログラミング検定を活用して、学習の成果を第三者目線により具現化をしている。難易度は ENTRY < BASIC < STANDARD < EXPERT の順である。教室では、小中学生でも ENTRY を取得、BASIC では、高校生が合格した。

プログラミング教育の問題点：教室では次の問題が発生している。学習難易度（初歩からのステップアップ時に挫折が発生しやすい）、内容選定（子供のやる気と大人目線との差異）、学習時間の確保（子供達の他学習との時間調節）、家庭学習の問題（パソコンの所持、保護者のPCスキルも依存）

2. 所感

プログラミング教育は、小中学生の自身の学習意欲（自らゲームを作り、遊ぶ）を上手に引き出し、目的である「合理的な思考力と問題解決能力を取得」へ導くことが肝要だと認識した。小中学生達がプログラミングを通じて取得した能力により、実践社会で活躍する姿を期待する。

（CPD 委員 内藤克巳）

例会報告

2022 年度第 6 回例会報告

2023 年 2 月 18 日に第 6 回例会を静岡労政会館で、WEB 併用で実施しました。

参加者は、WEB 参加者を含め、30 名でした。

講演は、技術士会でも見直しがされている技術者倫理と、未だ収まらない新型コロナ感染症に関するものでした。

講演 1

「技術者倫理『塔』を使って、考え、行動する力をつけよう」

講師：金沢工業大学 科学技術応用倫理研究所/客員教授 大来 雄二氏



写真 4-1 大来 雄二氏

企業不祥事や事故の背景にある技術者倫理について、幅広い視点からご講演して頂きました。電気がご専門の大北先生ですが、電気に限らず様々な技術面からの視点で考えるアプローチの仕方をご紹介頂き、大変参考になりました。今後技術者倫理を考える上での新たな視点が出来たと思います。

今後は自分自身でさらに知見を広げるために、ご紹介して頂いた関連図書を早速勉強しようと思う次第です。

また、日常の出来事等を観るときの視点も広がり、倫理的思考を身近な出来事からも実践出来そうな元気が出てきました。

日々の仕事や行事を、自分自信を倫理的に振り返りながら実践したいと思います。

講演 2

「新型コロナウイルス感染症対策と今後について」

講師：静岡県 健康福祉部 感染症対策局長/青山 秀徳氏



写真 4-2 青山 秀徳氏

未だ収まらない新型コロナ感染症対策の難しさを感じるご講演でした。感染対策の現状と課題についてご講演して頂きました。

マスク生活が 3 年続くと、マスクするのが普通になり、顔が見えない分感情を伴うコミュニケーションがしづらくなっています。厚生労働省も、新型コロナ感染症対策の基準を緩める方向で様々な検討をしています。通常の社会生活に安全に戻す様に、今後の方針に期待するところです。人類の歴史は、感染症との戦いの歴史でもあると言われるほど、感染症は身近なリスクです。感染症対策の基準が緩んだとしても、手洗い・うがい等個人でできる対策は継続していきたいと感じる講演でした。

(防災委員長 馬淵大樹)

TOPICS

■今後の行事予定

No	日時	行事
1	2023年6月3日(土)	年次大会
2	2023年6月24日(土)	合格者説明会
3	2023年8月19日(土)	第2回例会
4	2023年8月19日(土)	第3回例会
5	2023年11月	見学会
6	2023年12月9日(土)	第4回例会
7	2024年2月24日(土)	第5回例会

※会員の方には、メーリングリストにて随時行事の案内をお知らせ致します。

■編集後記

静岡県支部会報 178号をお読みいただきありがとうございます。

2023年度も引き続き、積極的に活動を行っていきたいと思います。今後とも、静岡県支部をよろしく願います。(松世)



2023年5月25日 夜のメリーゴーラウンド



中部本部 静岡県支部

事務局：〒424-0943 静岡県静岡市清水区港町 1-5-6
TEL：080-9194-4715 E-mail：ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
<http://ipej-shizu.sakura.ne.jp>